



早稻田大学 立川稻門会会報

2014年12月1日
第19号

発行 立川稻門会
事務局 立川市富士見町2-36-43
森山 善弘
TEL 042-523-7601
FAX 042-523-7605
<http://tachikawa-tomon.com>

立川稻門会第四十一回総会にあたり



会長 中村克久

早いもので私が立川稻門会会长を引き受け一年が経ちました。入会以来四年。考えたこともない、まさかの会長職でした。

私は会長を引き受けるにあたって三つの課題を掲げました。第一と第二が会員の増強と相互の親睦を深めることです。会の活性化、会員の増強も、今現に会員である一人一人がこの会の活動が面白くなければ説得力はありません。そして、新しい会員が折角入会してもフォローがなければなりません。

本年八月に校友会三多摩支部で『現状と活性化策に関する』アンケートを都下二十六稲門会に問いました。その結果、会員が減少している稲門会が半数を超

えること。高齢化、女性会員・新入会員が増えないことが共通課題として浮き上がりつきました。各稲門会ではこれ等の課題に対しても様々な試みをしているようですが決め手がないようです。立川在住の卒業生は約八〇〇人ほどです。そのうち立川稻門会への入会者は一三〇人前後です。今年は在住と思われる全員に、はがきで新年会、観桜会、稻門会総会への参加を呼びかけましたが、残念ながら期待した効果を上げることは出来ませんでした。現役世代は企業内稻門会や年次稻門会に参加されている方も多く思います。これ等の方もやがて地域に戻る日が来ます。その受け皿としても魅力ある稲門会の運営に努力しなければと思いま

す。第三の課題がインターネットの利用です。ホームページを立ち上げ、会の活動をできるだけ身近に素早く知つてもらうことは極めて有用だと思います。おかげさまで役員会や同好会の出欠席などはHPの利用が定着してきました。同好会の活動もHPで知ることができます。ただ、校友会関連の活動の投稿が少ないのが問題です。学園祭、商議員、評議員の皆様のご協力をぜひお願いします。

今年の総会では会則の改定を議決していただきました。その主な点は会の目的の第一は「会員相互の親睦」ということとし、「母校早稲田大学の事業を支援すること」を削除した事。第二は立川稻門会の会員を「立川稻門会会費納入者」と規定した事。そして第三は「当稻門会の秩序を乱した者を除名する事が出来る」という条項を設け会員を誹謗中傷するような会員が出

た場合はこれを排除する事が出来るようになります。今年は多くの運営を幹事長を初めとする若い方々に担つてもらいました。彼らの協力がなければ役員会や総会の運営が成功裏に終る事は難しかったと感謝申しあげます。今年も稻門スポーツの活躍が私たち先輩に大いに元気を与えてくれました。中でもソチパラリンピックの開幕前日聖火ランナーを務めた佐藤真海さん(二〇〇四年商学部卒)の東京オリンピックとパラリンピックの招致メンバーとしてスピーチした「私はスポーツの真の力を目の当たりにしました。新たな夢と笑顔を育む力。」も忘れることは出来ません。総会記念講演には毎日新聞社会部部長委員の萩尾信也さん(一九八〇年社会学部卒)による「日本人の生と死—被災地や欧州の現場からの報告」と題しお話を頂き、私たちが死を迎えた時の自己決定という厳しく難かしい課題を突き付けられました。

第四十一回 定時総会の報告



二、第二部 講演

萩尾信也様の「日本人の生と死—被災地や欧州の現場から報告」

（毎日新聞東京社会部 部長委員）

- ・議題1 平成25年度活動報告
- ・議題2 平成25年度会計報告
- ・議題3 平成25年度監査報告
- ・議題4 役員の変更（案）
- ・議題5 平成26年度活動計画
- ・議題6 立川稻門会会則の改定（案）

夫々の議題につき、担当役員から説明があり、すべて承認されました。

★ 「三陸物語」被災地で生きる人々の記録から
★ 「全てを失くして、大切なことを学んだ気がします。（トラック運転手）

★ 「俺にはやっぱり海しかねえ」（釜石の漁師）

★ 「逆境で人は変われるんですね」（消防士）

★ 「僕たちは心まで失ったわけではない。」（家族を三



平成二十六年十月二十五日（土）午後五時半より立川グランドホテルで行われました。

第一部 定時総会

第一部の定時総会は森山善弘幹事長の司会で、中村克久会長の挨拶、来賓の紹介が行われ、総会の議事に入り、相川雅信副幹事長が、議長に選出され、議事に入りました。

- ・議題1 講師：萩尾 信也
- ・議題2 講演（毎日新聞東京社会部 部長委員）

（講師略歴）
第一回の定時総会は森山善弘幹事長の司会で、中村克久会長の挨拶、来賓の紹介が行われ、総会の議事に入り、相川雅信副幹事長が、議長に選出され、議事に入りました。

（講師略歴）
第一部の定時総会は森山善弘幹事長の司会で、中村克久会長の挨拶、来賓の紹介が行われ、総会の議事に入り、相川雅信副幹事長が、議長に選出され、議事に入りました。

での安楽死の話など、生々しい話に会場の皆さんがあれに聞き入る姿がみられました。

〈講師略歴〉

一九五五年長崎県生ま

れ。一九八〇年早稲田大学

社会科学部卒業後、毎日新

聞社入社。二〇一一年三月

十一日、社機で羽田から三

陸へ飛び、少年期の故郷・

岩手県釜石市を拠点とし

て、被災地に生きる人々の

記録・ルポタージュを開始。

同時に毎日新聞で「三陸物

語」の連載が始まった。そ

の記事は、怒涛のごとき迫

力をもつてリアルに心情に

迫りくる貴重な現地ルポだ

んだ。

★ 人を失った父親

★ 「釜石の未来は大丈夫、私がってこの歳で復帰できたのよ」（釜石最後の芸者）

三、第三部 懇親会

第三部の懇親会は場所を

三階に移し、上野竜造幹事の司会進行で懇親会には

いり、佐々木裕康地域担当

部長、立川三田会の大石俊

雄会長のご挨拶、波多野進

和やかな懇談に入つて行き

ました。

四、役員の退任・新任

退任役員

伊藤暢子（業務幹事）

大岩泰世（監査）

副会長の乾杯で幕が開き、和やかな懇談に入つて行き

ました。

新任役員

田村二葉（業務幹事）
田中清勝（監査）

しばらくして、長谷川副会長から、新会員、現役生の紹介と、夫々の自己紹介がありました。皆、懇談で盛り上がるなか、立川稻門会同好会幹事から活動状況、勧誘の話が続きました。最後に、遠藤倫生さんの指揮で、校歌齊唱とエールで全ての行事が終わりました。

五、平成二十六年活動計画

立川稻門会の会員拡大。
団塊の世代に的絞る。
同好会活動を活発にする。
ホームページの充実を図る。

六、会則の改定

（詳細はHPをご覧ください。）

★ 主な改定点

①会の目的の変更
②会員を「立川稻門会会費納入者」と定めたこと。
③会員除名条項を定めたこと。

萩原信也氏講演「日本人の生と死」を聴いて

浅谷佳秀（S61法）

私の出た高校は大した進学校ではなかったので、同期で早稲田に進学したのは私とO君の二名だけだった。そのO君が今年、癌で亡くなった。

「死ぬこととは」（翻つて「生きることとは」という問いと、我が事としてきちんと向き合わなくては、と思わざるを得ない出来事だった。

早大から社会人を経て、長崎大学の歯学部に入りなおした私は、解剖実習を経験した。一人の人間のご遺体を頭のてっぺんから足のつま先まで解剖するのだ。

作業が遅れ気味のときなど、休日出てきて、がらんとした実習室で一人黙々と解剖したこともある。自分が手を動かす音だけが響く中で、死者と対話している気がしたことをおぼえている。

医学を学ぶ学生は、解剖実習を通して「死」に慣れゆく。私の妻も医師である。彼

女が往診をしている患者さんは癌の末期など、お迎えが近い方が少なくない。夜、夫婦でお茶を飲んでいるとき、彼女は時々、患者さんが亡くなつた話をしてくれる。その延長で、自分がどういう死に方をしたいか、したくないか、といった類の話になることもしばしばある。

それでも「死ぬこととは」と改めて問われたら私はうまく答えられない。回答は無限にある気がする。

先輩記者である佐藤健氏

の死、日航ジャンボ墜落事件、東日本大震災、そして海外における安楽死、尊厳死の合法化——幾多の生と死の現場を取材してきた萩尾氏の淡々とした語り口には、ジャーナリストらが感じられた。

何故かというと、日本では「死」は本人ではなく、家族や周囲の意向に左右されるからである。加えて、日本人の「看取り」に対する考え方においては「生存時間」が最も重視され、「QOL（生活の質）」や「尊厳の保持」が軽視されている。他の国の人々が、これと真逆の傾向であった。

死にゆく本人の意思がないがしろにされてしまうのには、周囲の人だけの責任とも言いくらいだ。この国際調査が示しているのは、日本人が常日頃から、自分の死について向き合ってこなった、ということではない。

ところで、雑誌「文芸春秋」の二〇一四年十一月号に「世界の『死に方』と『看取り』」という特集記事が掲載されている。

この記事で世界の中での「看取り」における日本の特異性が取り上げられている。調査の対象となつた世界8か国（日本、フランス、イギリス、イスラエル、オーストラリア、オランダ、韓国、チェコ）の中で、看取りの「理想と現実」が最も大きく乖離しているのが日本だという。要するに、死にゆく本人は自宅で自然に逝きたいと願っているのに、その希望が汲まれることはほとんど無く、現実には病院で、望まない延命治療をほどこされた末に死ぬ、というパターンが日本では多いのである。



同好会活動を共に楽しみませんか！

★稻酔会

代表 長野長正

TEL 566-11033

平成9年に発足。個性豊かな人材に恵まれ、形式ばらず、一期一会を大事にする気楽な会です。



ンコール希望あり。

・H26年6月7日、「戎ビアホール吉祥寺」で開催、小平稻門会と早稲田祭運営

スタッフ含む34名参加。会場は武藏野稻門会のお酒仲間「三水会」の例会場。「戎」(えびす)だから、サッポロビール

と思いきや、日本酒、焼酎、ワイン、ビールなんでもおいてあつた。

・H26年10月4日、福生の「田村酒造」で青梅線、五日市線合同稻酔会を開催、過去最高の53名(幹事 立川29名)が参加。

・H26年11月15日、11年ぶりの南足柄市の「アサヒビール園」にいく。一日がかりのバス旅行を楽しんだ。早稲田祭運営スタッフ2名を含む18名が参加。

鷺海量良 記

★談話サロン

「参加者も主役の談話サロン」

代表 小宮山正明

TEL 526-12602

〈最近の活動〉

・H25年9月20日、曙町の居酒屋「ゆらり」で開催。初参加4名、平成卒組7名を含め、総勢32名参加し、予約定員30人をオーバーしてしまった。

・H25年12月5日、曙町のインド料理「SITAL」で開催。

この会は平成24年7月に発足し、稻門の皆さんとの貴重な体験や趣味などについて、うちとけた雰囲気の中で楽しむもので、人材豊富な早稲田の気風にあらわれているように、人生体験、その道の達人からのお話、サー二人のアトラクションあつたためか、陶酔した会員からア

の時々の身近な閑心事など、ジャンルを問わない興味深いテーマを話題にしています。

苑～青山墓地～原宿～築地市場とその周辺～狹山湖畔～早大所沢

★ゴルフ愛好会

代表 田村 一葉

TEL 535-13878

平成8年5月に発足。年二回開催。戦わない早慶戦交流会も実施。郵便振替で参加確認。



〈今年のテーマ〉

「我が心の旅」「アサーティブ会話で良いコミュニケーション」「アメリカに駐在して」「地下鉄と私」「小笠原諸島の旅」「半導体屋からみたよもやま話」「終わりよければすべてよし」

「競技ダンスを通して学んだ体の動き」「沖縄テクテク一人旅」「観光以外のグアム」「甲州街道を行く」

★立川稻門麻雀クラブ

「TTMC」

代表 小木曾夏樹

TEL 523-5546



★カルチャーを楽しむ会

代表 小林 章子

平成23年発足。今年、立川シネマⅡで映画「永遠の0」鑑賞

★早稲田ラクビー愛する会

代表 大上 保

TEL 536-10940

平成17年発足。毎年早慶戦、早明戦を中心に楽しんでいます。

★駅伝同好会

代表 小林 和雄

TEL 526-13245

今年「おんきょうマラソン駅伝」横田駅伝に参加しました。



★カラオケ同好会

代表 佐竹茂市郎

TEL 526-18921

平成16年立川古村散策で発足。
（今年の散策先）
「多摩川、玉川上水河畔散策と酒造所見学」「野川を下る」「お茶会・無門庵」「多摩湖畔散策と納会」「隅田川七福神巡り」「湯島聖堂、本郷周辺」「明治神宮外苑～青山墓地～原宿～築地市場とその周辺～狹山湖畔～早大所沢」

「賭けない・飲まない・吸わないの三原則」を守って、健康麻



を格段に見直す
よう具体的な
指摘を受けてい
る。また、地震
学者から、津波
対策として、8
69年におきた
「貞観地震」を検
討すべきと指摘
をうけている。
その時に本店で
取り仕切ったの
が当時の本店「設
備管理部長」吉
田昌朗部長で
あった。結果的
には「土木学会」

たんだ。東京電力のこの話だけに持ってくるのはおかしいであろう。」すこし切れてしまった発言のように見える。

今、地震津波の被害は受けないで、放射能汚染で避難している人が、不自由な避難生活を強いられていることを考えてない暴論に近い発言のように聞こえる。

調書の中で、吉田所長が

公開された「吉田調書」(元東京電力福島第一原子力発電所所長)を呼んで

岩瀬英治（S41理工）

福島第一発電所は、電源

冷温停止に移行することが
できた。

・吉田所長の切れた発言

調書の中で、質問者の質問
「貞觀地震クラスが来る
かもしれない」と見越して、
すこしでも対策取れなかっ

故調の地震学者に対してもある。自然災害のリスクをぶちあげる学者に対して、工学的な見地での評価を踏

建設の昭和45年当時は、G Eの主導で建設されていて、米国での経験から「大津波」のことは、あまり考慮されなかつたかもしぬない。原子炉は海水で冷却する必要があるため、エネルギー効率の観点から、当時高台であった土地を削って建設したらしい。

う主張である。そして貞観は、地震に関する津波リスクの指摘を無視した責任を探る質問には、吉田所長は上層部に「大津波のリスクは定説ではないし、対応する根拠もない」と伝えた」と言っている。まさに上司をかばい、責任は一身に負う、その気概を持ち合わせている人物と評価されるものである。

一方、東北電力女川原子力発電所も、外部電源は殆ど使えない被害を受けたが、非常用発電機が自動起動した結果、冷温停止状態に持ちこめた。女川発電所は、設計段階で巨大地震を想定して、主要設備を標高14.8mの高台に建設している。非常用発電機も高台にあって難を逃れた。東北に生まれ育った人が、津波の

う主張である。そして貞観は、地震に関する津波リスクの指摘を無視した責任を探る質問には、吉田所長は上層部に「大津波のリスクは定説ではないし、対応する根拠もない」と伝えた」と言っている。まさに上司をかばい、責任は一身に負う、その気概を持ち合わせている人物と評価されるものである。

一方、東北電力女川原子力発電所も、外部電源は殆ど使えない被害を受けたが、非常用発電機が自動起動した結果、冷温停止状態に持ちこめた。女川発電所は、設計段階で巨大地震を想定して、主要設備を標高14.8mの高台に建設している。非常用発電機も高台にあって難を逃れた。東北に生まれ育った人が、津波の

う主張である。そして貞観は、地震に関する津波リスクの指摘を無視した責任を探る質問には、吉田所長は上層部に「大津波のリスクは定説ではないし、対応する根拠もない」と伝えた」と言っている。まさに上司をかばい、責任は一身に負う、その気概を持ち合わせている人物と評価されるものである。

一方、東北電力女川原子力発電所も、外部電源は殆ど使えない被害を受けたが、非常用発電機が自動起動した結果、冷温停止状態に持ちこめた。女川発電所は、設計段階で巨大地震を想定して、主要設備を標高14.8mの高台に建設している。非常用発電機も高台にあって難を逃れた。東北に生まれ育った人が、津波の

う主張である。そして貞観は、地震に関する津波リスクの指摘を無視した責任を探る質問には、吉田所長は上層部に「大津波のリスクは定説ではないし、対応する根拠もない」と伝えた」と言っている。まさに上司をかばい、責任は一身に負う、その気概を持ち合わせている人物と評価されるものである。

一方、東北電力女川原子力発電所も、外部電源は殆ど使えない被害を受けたが、非常用発電機が自動起動した結果、冷温停止状態に持ちこめた。女川発電所は、設計段階で巨大地震を想定して、主要設備を標高14.8mの高台に建設している。非常用発電機も高台にあって難を逃れた。東北に生まれ育った人が、津波の

国史が語る 千年前の大地動乱

東日本大震災と酷似した巨大津波が平安時代前期にあった
同じころ、富士山噴火や西日本を襲う津波地震も起きていた

しており、高台に立てるべきと、強く主張したという逸話がある。津波に対する恐怖があるかないか、巨大地震を想像することができないか、福島第一発電所と女川発電所の被害の大きさの分かれ目になったといつても過言でないかもしない。

福島第一発電所の1号機
は米国G E製の炉である。

地域活動を通じて得たもの

相川 雅信（H3・政経）

会社員である私が立川市で本格的な地域活動を始めたのは、今から約七年前です。そして、そのきっかけとなつたのは約十六年前に遡ります。

長男が幼稚園に通つていた時、その幼稚園に「おやじの会」というものがあり、妻に「参加してみれば」と背中を押され、半信半疑で参加してみたのでした。私は当時、仕事人間でした。ところが、いざこの「おやじの会」に参加してみると、私と同じように仕事に忙しい「おやじ達」が楽しく活動していました。名刺の肩書きを気にせず、地元で一緒に酒を飲む中で、いつの間にか「おやじの会」が私の生きがいになつていったのです。

その後、仕事の都合で六年間、家族と共に京都で暮らしましたが、この京都でも地元の小学校で「おやじの会」に参加しました。再び立川へ戻ってきてからも、第八小学校で当然のご

とく「おやじの会」に入りました。

そして平成二十年からは、おやじの会の縁もあり、立川第六中学校でPTA役員を引き受け、私の本格的な地域活動が始まったのです。この年は、PTA副会長、おやじの会会長、自治会副会長という三つの役職を務めており、「相川は仕事をやっているのか?」と思われていたのではないで

しょうか。

中学校で最終的にPTA会長を務めたことにより、地域においても立川市青少年健全育成地区委員会にも参加するようになり、私の地域活動は更に行動範囲が広がりました。下の娘が中学校を卒業後は、立川市青少年健全育成栄町地区委員会の副委員長として現在に至っています（立川稻門会への参加のきっかけも、この地域活動でした）。また昨年の会に参加しました。再び立川へ戻ってきてからもPTA役員を始めました。

ここまで私がPTA活動



や地域活動にどっぷりと浸かっているのは、なぜですか。単純に「楽しい」からです。私は「趣味はPTA活動です」と明言しています。「PTA役員」と聞くと「絶対やりたくない」と思っている方も多く、PTA役員の人材確保は、全国のPTAで共通の悩みとなっています。しかし実際に引き受けたみると、PTA仲間の友達が増えます。学校の先生方とも親しくなります。更に地域でも友達が増えます。十五年後、私が会社で定年を迎えて、この地元立川には、立川稻門会の皆様と、そして地域の友達に囲まれ、楽しい老後を過ごすことができると確信しています。

PTA活動も地域活動

ル」が昨年、東京都の「ころの東京革命推進モデル」に選ばれ表彰されました。地域で、学校・PTAと共に子供を育てる、ということことはとても重要なことです。昨今のいじめや、インターネット、スマホをはじめとする教育の諸問題についても、特に地域と学校・PTAとの連携が求められています。

◆長年立川稻門会に尽力をつくされた「大岩泰世さん」「伊藤暢子さん」が役員を退任されました。長い間ご苦労様でした。一人とも地域貢献活動にも、現在ご活躍であります。

◆立川稻門会のホームページのサーバーの会社から、不正なログインを試みるアクセスの可能性が判断されたために、アクセス制限を実施し、ログインができないように対応したといふメールが、届いた。確かに投稿するためのログインで誰かが、パスワードが分からず、何回もログインを試行して、それでサーバー側が「これはあやしい」と機械的に判断したかも知れないと判断したかましれない。設定を前に戻し今は回復しています。

◆最近の新聞に、「立川断層地震切迫せず」という記事が掲載されていた。瑞穂町の狹山神社付近の溝を掘り、断層を確認したという。最新活動時期は、600～700年前の中世以降で活動周期は3千～6千年で、次の地震発生は切迫していないといいます。立川市青少年健全育成地区委員会では、環境改善活動（要はゴミ拾い）や夜間パトロールなどを定期的に行っています。また地元の高校生と共に地元の高校生と共に行つた「児童向け夏休み地域プ

編集後記